

については、歯科診療報酬の保険点数にも採用され、歯科臨床に根付いたところであった。

また、最新の10年間（2012～2021年）では、全73件のうち、う蝕予防関連が9件（12%）であるのに対し、歯周疾患予防関連が13件（18%）と逆転した。フッ化物はわずかに2件、窩溝充填塞は皆無であった。フッ化物関連についても歯科の保険点数に採用され、歯科臨床に根づいてきたことが要因なのであろう。しかしながら、根面う蝕などの高齢者へのフッ化物応用に関する研究も見られ始めている。歯周疾患については分子細胞免疫学的研究が多くを占め、より臨床的な研究は少なくなっている。

最近の傾向として、歯の喪失に繋がるう蝕と歯周疾患という2大疾患以外の、全身の健康との関わりや、高齢者関連の研究（摂食嚥下、口腔機能、現在歯数、骨格筋量など）、周術期の口腔ケア関連研究、健康格差は正関連研究など多岐に広がっているのが特徴である。つまり、う蝕や歯周疾患予防の研究の必要性がなくなったわけではなく、歯・口腔の重要性が解明され始めたことによって、研究の枠が広がっていることを示している。また、今までの富徳会助成受領研究が、新しい歯科製品の開発、臨床応用、新しい政策などに結びついているものも散見されるようになっている。

今後は、歯や歯周組織の再生医療に関する研究が台頭してくるであろうことは予想できるが、再生可能だからといって発症予防を蔑ろにするものであってはならない。予防するにしても、単にう蝕や歯周疾患を数量的に減らすということだけでなく、歯・口腔の機能をいかに存続させ、ひいては一生涯のQOLの維持・向上を目指すことのできる研究の進展に期待するものである。さらに、最近では臨床的な研究が少なくなっていることも気がかりである。現代は、人を対象とする研究には種々な制限があり、実施しにくいことは理解できるが、それを理由に実施を見送るのではなく、生活や人生をより豊かにするためには、ぜひとも必要な研究手法であるので挑戦していただきたいと考える。また、後期高齢者が増え続ける近未来に備えて、基礎疾患や疾病とその手術などの治療に伴う歯・口腔の不具合を克服し回復できることに繋がる研究にも期待したい。

いずれにしても、富徳会の研究助成制度は、ほかの制度と違って過度な制約に縛られずに行うことができるという魅力がある。今後とも若く活気に満ちた研究者の育成に貢献する登竜門として、また継続して研究を遂行したいという歯学研究者にとって、この助成制度が発展継続していくことを願って結びとする。

口腔衛生歯科学部門

| 年 | 氏名 | 助成時の所属 | 研究テーマ | 推薦者 | 支給額 万円 |
|------|-------|-----------------|--------------------------------------------------------------------------------------|--------------|-----------|
| 1971 | 杉本 友夫 | 富山保健所 | ① 2歳時に対する2% NaF 塗布によるう蝕予防効果について(年1回・2回・3回法) ② 口腔衛生教育(2歳児をもつ母親)を行う事によってう蝕罹患阻止率について | 厚生省 笹本正次郎 | 20 |
| | 城所 繁 | 愛知学院大学 歯学部 | ① 乳歯生活歯髄切断法の実験的研究 ② 乳歯第2象牙質形成に関する実験的研究 | 榑原悠紀田郎 | 20 |
| | 米田 一男 | 大阪大学 歯学部付属病院 | 歯周疾患の予防に関する研究 | 松村 敏治 | 20 |
| | 吉田 太一 | 日本歯科大学 大学院 | 歯周疾患に関係ある2、3の指数の関連性 | 丹羽 輝男 | 20 |
| | 大沢 武雄 | 東京歯科大学 | 齶蝕予防填塞法の歯質の表面処理に関する研究 | 竹内 光春 | 20 |
| 1972 | 楠 憲治 | 大阪歯科大学 | 各種口腔清掃器具使用時の力学的観察及びその効果 | 小西 浩二 | 30 |
| | 志村 則夫 | 東京医科歯科大学 | Streptococcus mutans の好気性及び兼気性でのブドウ糖代謝と Po4 イオンの関係 | 大西 正男 | 30 |
| | 矢崎 武 | 東京歯科大学 | 解糖系酵素におよぼすフッ化物の影響 | 飯塚 嘉一 | 30 |
| | 谷 浩 | 北海道大学 歯学部 | 弗化物塗布と合成樹脂填塞法の作用によるう蝕予防 | 岡田昭五郎 | 30 |
| | 渡辺 達夫 | 広島大学 歯学部 | 唾液中に存在するリゾチーム活性の増強因子 | 常光 旭 | 30 |
| 1973 | 井村 正義 | 日本歯科大学 大学院 | 乳歯う蝕の増加とそれに影響を及ぼす諸因子について | 丹羽 輝男 | 30 |
| | 大杉 利幸 | 九州大学 歯学部 | 培養唾液腺における過酸化酵素の出現とその抗菌活性 | 森岡 俊夫 | 30 |
| | 藤岡三之輔 | 大阪大学 歯学部 | 歯牙微量元素元素に関する衛生学的研究 | 松村 敏治 | 30 |
| | 中垣 晴男 | 愛知学院大学 歯学部 | エナメル質生検法の臨床応用に関する研究 | 榑原悠紀田郎 | 30 |
| | 竹山 敬治 | 東京歯科大学 大学院 | 合成樹脂接着剤によるう蝕予防填塞材の研究 | 竹内 光春 | 30 |
| | 高木 興氏 | 東北大学 歯学部 | 咬合面自浄作用増強によるう蝕予防法についての疫学的研究 | 島田 義弘 | 30 |
| 1974 | 奥寺 元 | 神奈川歯科大学 | フッ素局所応用のう蝕予防効果に関する研究 | 飯塚 嘉一 | 30 |
| | 笠原 香 | 松本歯科大学 | フッ化物によるう蝕予防処置を行う場合の個人差 | 近藤 武 | 30 |
| | 寿 武一郎 | 九州大学 歯学部 | Streptomyces 由来の溶菌酵素による歯苔形成の抑制 | 森岡 俊夫 | 30 |
| | 松久保 隆 | 東京歯科大学 | 合成ハイドロキシアパタイト吸着ムチンの脱灰及び再石灰化に及ぼす実験的研究 | 竹内 光春 | 30 |
| | 安倍 英雄 | 城西歯科大学 歯学部 | 地域的フッ素の分布調査についての研究 | 中尾 俊一 | 30 |
| | 井上 博之 | 東北大学 歯学部 | 小窩裂溝部の日常的刷掃によるう蝕予防について | 島田 義弘 | 30 |
| | 雫石 聡 | 大阪大学 歯学部 | 唾液抗菌因子(S.A.Factor)に関する研究 | 横溝 一郎 | 30 |

| 年 | 氏名 | 助成時の所属 | 研究テーマ | 推薦者 | 支給額 万円 |
|------|-------|-----------------|-----------------------------------------------------|--------------|-----------|
| 1974 | 宮沢 忠蔵 | 東北歯科大学 | う蝕の実験疫学的研究 | 清水 秋雄 | 30 |
| 1975 | 高橋 義一 | 東京歯科大学 | う蝕予防填塞法へのフッ化物の応用 | 竹内 光春 | 30 |
| | 小暮 法次 | 日本歯科大学 | 乳歯う蝕の増加と身体発育との関係 | 坪根 哲郎 | 30 |
| | 神原 正樹 | 大阪歯科大学 | エナメル質イオン透過性に関する電気化学的研究 | 小西 浩二 | 30 |
| | 石井 拓男 | 愛知学院大学 歯学部 | 斑状歯の疫学的研究 | 榊原悠紀田郎 | 30 |
| | 米満 正美 | 東京医科歯科大学 歯学部 | Calculus Splint 下の生態学的研究 | 大西 正男 | 30 |
| | 岩倉 政城 | 東北大学 歯学部 | 臼歯咬合面の形態とう蝕感受性についての疫学的研究 | 島田 義弘 | 30 |
| | 竹原 直道 | 九州大学 歯学部 | 非水溶性分岐型グルカン分解酵素に関する研究 | 森岡 俊夫 | 30 |
| | 伊藤 雅夫 | 大阪府衛生部 | 府下における乳幼児の歯科保健に対する母親の意識 | 厚生省 笹本正次郎 | 30 |
| 1976 | 安武 愛記 | 広島大学 歯学部 | ヒト耳下腺唾液の Iodide Peroxidase のヨウ素化機構 | 岩本 義史 | 30 |
| | 堀井 長幸 | 日本歯科大学 | 民族差による学童のう蝕罹患の比較について | 坪根 哲郎 | 30 |
| | 谷口 健詩 | 大阪大学 歯学部 | 歯垢の基質形成に関与する酵素について | 常光 旭 | 30 |
| | 白土 正芳 | 東北大学 歯学部 | 永久歯咬合面う蝕の初発部位の実態を解明する研究 | 島田 義弘 | 30 |
| | 古賀敏比古 | 九州大学 歯学部 | 歯苔の形成機作に関する研究 | 森岡 俊夫 | 30 |
| | 小林 清吾 | 新潟大学 歯学部付属病院 | 飲料水中フッ素濃度とう蝕罹患状態およびエナメル質形成不全症の発現率に関する疫学的研究 | 堀井 欣一 | 30 |
| | 河野 知弘 | 神奈川歯科大学 | 斑状歯及びその代謝に関する研究 | 飯塚 喜一 | 30 |
| 1977 | 丹羽 源男 | 日本歯科大学 | 乳歯う蝕の疫学 | 鯉沼 菲吾 | 30 |
| | 脇 勉 | 大阪歯科大学 | 歯石除去に関する研究 | 小西 浩二 | 30 |
| | 安彦 良一 | 神奈川歯科大学 | う蝕予防のためフッ化物の研究 | 飯塚 喜一 | 30 |
| | 柴田 聡明 | 大阪大学 歯学部 | 歯垢と唾液の糖成分との関係 | 常光 旭 | 30 |
| | 戸田 恭司 | 広島大学 歯学部 | ヒト唾液腺に存在する B-N-Acetylglucosaminidase の細胞内動態に関する研究 | 岩本 義史 | 30 |
| | 佐藤 誠 | 東京医科歯科大学 歯学部 | Str.mutans 抗原分析を行い宿主の各々の型別 Str.mutans に対するう蝕感受性を調べる | 大西 正男 | 30 |
| | 高田 章 | 東京歯科大学 | 初期う蝕のシアノアクリレート系填塞材を填塞う蝕進行阻止例の研究 | 竹内 光春 | 30 |
| | 五味淵秀明 | 日本歯科大学 新潟歯学部 | 地域歯科保健に関する研究 | 末高 武彦 | 30 |
| 1978 | 永目 誠吾 | 大阪歯科大学 | う蝕予防填塞法に関する研究 | 小西 浩二 | 30 |
| | 鈴木 恵三 | 北海道苫小牧保健所 | 組合せ、う蝕予防の公衆衛生的実践とその評価 | 厚生省 三井 男也 | 30 |

| 年 | 氏名 | 助成時の所属 | 研究テーマ | 推薦者 | 支給額 万円 |
|------|-------|-----------------------|-------------------------------------------------------------------------|--------------|-----------|
| 1978 | 五十嵐康夫 | 東京歯科大学 | う蝕予防と関係する人間の日常生活全般についての文化人類学的社会的検討 | 竹内 光春 | 30 |
| | 篠宮 真琴 | 愛知県刈谷保健所 | ①地区における母子歯科保健施策効果的展開に関する研究 ②含糖食品に含まれる糖量測定とその測定法の簡素化に関する研究 | 厚生省 三井 男也 | 30 |
| | 塚田 満男 | 東北大学 歯学部 | フッ化物歯面塗布に付随した不快症状の発現について | 島田 義弘 | 30 |
| | 松村 孝史 | 大阪大学 歯学部 | 糖尿病患者の耳下腺唾液に見出される遊離の糖と歯垢形成 | 常光 旭 | 30 |
| | 柴田 治雄 | 九州大学 歯学部 | う蝕予防を目的とするラットハムスターを用いての実験的研究 | 森岡 俊夫 | 30 |
| | 楳林 正夫 | 広島大学 歯学部 | 歯口疾患の疫学的研究矯正患者に対する刷掃指導 | 岩本 義史 | 30 |
| | 田村 卓也 | 新潟大学 歯学部 | う蝕と歯垢 | 堀井 欣一 | 30 |
| 1979 | 熨斗 秀光 | 大阪歯科大学 | フッ素塗布後のエナメル質最表層電気化学的研究 | 小西 浩二 | 30 |
| | 飯島 洋一 | 岩手医科大学 歯学部 | 乳歯・う蝕有病状況と養育環境について | 高江洲義矩 | 30 |
| | 原 康二 | 神奈川歯科大学 | フッ化物の甲状腺に対する影響について | 飯塚 喜一 | 30 |
| | 野中 秀樹 | 徳島大学 歯学部 | う蝕原性細菌の産生する glucan の構造解析 | 中村 亮 | 30 |
| | 奈良 美夫 | 九州大学 歯学部 | 幼若歯苔の形成阻害に関する研究 | 森岡 俊夫 | 30 |
| | 若林 幸枝 | 愛知県名古屋市 東保健所 | 都市保健所における母子歯科保健管理の効果的展開に関する研究 | 厚生省 三井 男也 | 30 |
| | 河原真知子 | 東京都衛生局東村山・ 東久留米保健所 | 保健所歯科衛生事業の評価と今後の運営方向の検討 | 厚生省 三井 男也 | 30 |
| | 薬師寺 毅 | 鹿児島大学 歯学部 | プラーク形成に関与すると思われる Streptococcus mutans の細胞表層構造とデキストランの関連性について | 井上 昌一 | 30 |
| | 松阪佳代子 | 神奈川県小田原保健所 | 1歳0ヶ月からの歯科的管理 | 厚生省 三井 男也 | 30 |
| 1980 | 望月 廣 | 日本大学 松戸歯学部 | 幼児の口腔内汚染とウ蝕発生の関連性の検討 | 森本 基 | 30 |
| | 石田 覚也 | 神奈川歯科大学 大学院 | フッ素症に関する実験的研究 | 飯塚 喜一 | 30 |
| | 岸本 悦央 | 九州大学 歯学部 | ハムスター実験ウ蝕系における Streptococcus mutans AHT 変異株のう蝕原性の検討 | 森岡 俊夫 | 30 |
| | 石上 和男 | 新潟県新発田保健所 | 小児ウ蝕の疫学調査 | 厚生省 三井 男也 | 30 |
| | 磯崎 篤則 | 岐阜歯科大学 歯学部 | 学校歯科保険におけるう蝕予防法に関する研究 | 可見 瑞夫 | 30 |
| | 永田 清 | 大阪大学 歯学部 | 歯垢の基質形成機序一特に唾液糖タンパクと口腔細菌との相互作用について | 常光 旭 | 30 |
| | 眞木 吉信 | 東京歯科大学 | 種々の甘味料の歯垢形成性と酸産生性の測定とこれらの口腔環境に与える影響の調査 | 竹内 光春 | 30 |
| | 三枝 博文 | 昭和大学 歯学部 | 現在使用されているフッ素定量法であるイオン電極法の欠点を補う定量法として有機ケイ素化合物への抽出にひきつづくガスクロマトグラフ定量の実用を追求 | 上田 喜一 | 30 |
| | 田沢 光正 | 岩手医科大学 歯学部 | 飲料水中フッ素の乳歯ウ蝕抑制効果についての疫学的研究 | 片岡 剛 | 30 |

| 年 | 氏名 | 助成時の所属 | 研究テーマ | 推薦者 | 支給額 万円 |
|------|-------|--------------------|---------------------------------------------------------|--------------|-----------|
| 1980 | 奥 忠之 | 大阪歯科大学 | ウ蝕発生におよぼす唾液性状について | 小西 浩二 | 30 |
| 1981 | 田村 基政 | 大阪歯科大学 | 歯垢付着に影響を及ぼす要因についての研究 | 小西 浩二 | 30 |
| | 佐藤 節子 | 広島大学 歯学部 | デンタル・プラークの形成機序 Streptococcus mutans の Sucrose 代謝の機構 | 井上 昌一 | 30 |
| | 森田恵美子 | 九州大学 歯学部 | レーザー照射によるエナメル質の耐酸性付与に関する実験的研究 | 森岡 俊夫 | 30 |
| | 玉川 裕夫 | 大阪大学 歯学部 | 唾液糖たんぱく質と口腔連鎖球菌との結合様式 | 常光 旭 | 30 |
| | 武井 啓一 | 東京医科歯科大学 歯学部 | Rat 実験ウ蝕法による未成熟歯牙の Caries Susceptibility について | 岡田昭五郎 | 30 |
| | 足立マリ子 | 東京都福生保健所、 立川保健所 | 保健所における幼児のウ蝕予防活動の方法及び効果の検討 | 厚生省 三井 男也 | 30 |
| | 森下 真行 | 広島大学 歯学部 | ヒト混合唾液中のプロテアーゼ活性と歯石形成の関連について | 岩本 義史 | 30 |
| | 荒川 浩久 | 神奈川歯科大学 | フッ素(低濃度フッ化物溶液) 洗口児童の乳歯の化学的性状 | 飯塚 喜一 | 30 |
| | 田浦 勝彦 | 東北大学 歯学部 | 乳歯ウ蝕罹患に関する要因についての研究 | 島田 義弘 | 30 |
| | 小山 主之 | 城西歯科大学 | 臨床におけるウ蝕活動性試験の組合せ応用に関する研究 | 中尾 俊一 | 30 |
| 1982 | 大塚 誠 | 徳島大学 歯学部 | 口腔常在菌の産生する Protease の性質と組織破壊因子としての役割の研究 | 中村 亮 | 30 |
| | 高橋 美次 | 岐阜歯科大学 | エナメル質及び象牙質に及ぼす低濃度フッ化物溶液の影響 | 可児 瑞夫 | 30 |
| | 浅井 康年 | 神奈川歯科大学 | フッ素が骨代謝に及ぼす影響についての研究 | 飯塚 喜一 | 30 |
| | 望月 廣 | 日本大学 松戸歯学部 | 乳歯の白斑とウ蝕発生との関係についての研究 | 森本 基 | 30 |
| | 渋谷 芳郎 | 東北大学 歯学部 | 不正咬合の評価を臨地でも可能なものにするために疫学指数を開発して、咬合状態の数量化を目指す | 島田 義弘 | 30 |
| | 井下 英二 | 大阪大学 歯学部 | プラーク形成における硫酸基をもつ唾液糖タンパク質の役割 | 常光 旭 | 30 |
| | 佐塚仁一郎 | 東京歯科大学 | エナメル質表層の再石灰化現象について | 高江洲義矩 | 30 |
| | 北原 稔 | 神奈川県藤沢保健所 | 今後の地域歯科保健に関する研究 | 厚生省 三井 男也 | 30 |
| | 犬飼 幸恵 | 宮城県仙台市衛生局 南保健所 | 第一大臼歯の管理法について(特に行政的立場から) | 厚生省 三井 男也 | 30 |
| | 村上多恵子 | 愛知学院大学 歯学部 | 唾液の緩衝能、ウ蝕感受性の個体研究の一環として主として唾液緩衝能測定について、更に個体差識別の有用な示標を追求 | 榊原悠紀田郎 | 30 |
| 1983 | 小澤 雄樹 | 東北大学 歯学部 | Sticky fissure における Sticky 感の測定 | 島田 義弘 | 30 |
| | 大村貴志江 | 東京歯科大学 | (1) ゲルフッ化物の局所応用に関する研究 (2) う蝕発病性評価に基づくウ蝕予防プログラム | 高江洲義矩 | 30 |
| | 栗田 恵子 | 北海道大学 歯学部 | 歯周疾患およびウ蝕の臨床的並びに疫学的自動解析システムの開発研究 | 谷 宏 | 30 |
| | 森 孝 | 大阪歯科大学 | 小学校児童におけるウ蝕の疫学的調査 | 小西 浩二 | 30 |

| 年 | 氏名 | 助成時の所属 | 研究テーマ | 推薦者 | 支給額 万円 |
|------|-------|---------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------|-----------|
| 1983 | 田箆 祥子 | 九州大学 歯学部 | Nd-YAG レーザーをヒト及びハムスターの歯牙エナメル質に照射すると、エナメル質の耐酸性が向上する。一方、フッ素塗布によってもエナメル質の耐酸性が強まる。そこでフッ素塗布した後、同レーザーを照射すれば相加効果が得られるかどうかについて検索する。 | 森岡 俊夫 | 30 |
| | 飯野新太郎 | 岐阜歯科大学 | (1) フッ化チタン化合物の Enamel 質に及ぼす影響に関する研究 (2) 学校保健におけるう蝕予防に関する研究 | 可児 瑞夫 | 30 |
| | 猪股 哲夫 | 国立予防衛生研究所 | ラットにおける Streptococcus Mutans に対する免疫応答性 | 厚生省 三井 男也 | 30 |
| | 尾本 和彦 | 昭和大学 歯学部 | 心身障害児(者) 歯科(特に摂食機能について) | 金子 芳洋 | 30 |
| | 埴岡 隆 | 大阪大学 歯学部 | 反射スペクトル解析法の歯周疾患調査への応用 | 常光 旭 | 30 |
| | 若林 良孝 | 神奈川県厚木保健所 | 保健所における小児歯科保健管理について | 厚生省 三井 男也 | 30 |
| | 田中 園治 | 城西歯科大学 | 歯周疾患のスクリーニングと予防プログラム(唾液潜血テストの臨床への応用) | 中尾 俊一 | 30 |
| | 中村 宗達 | 長崎大学 歯学部 | フッ素洗口法のう蝕進行に及ぼす影響 | 高木 興氏 | 30 |
| 1984 | 花田 信弘 | 九州歯科大学 | Streptococcus mutans の非水溶性 glucan 合成酵素に対する Monoclonal 抗体とそれを用いた新しいう蝕活動性試験 | 佐伯 榮一 | 30 |
| | 友辺 芳明 | 徳島大学 歯学部 | 口腔内嫌気性菌の産生する collagenase の性質と組織破壊 | 中村 亮 | 30 |
| | 中根 卓 | 松本歯科大学 | フッ化ナトリウムの急性、慢性中毒における中毒機構の比較を研究する | 近藤 武 | 30 |
| | 平岩 弘 | 岡山大学 歯学部 | 歯周予防のための公衆衛生学的研究 | 渡邊 達夫 | 30 |
| | 岩瀬 達雄 | 九州大学 歯学部 | 環境温度と歯周疾患に関する実験的研究 | 森岡 俊夫 | 30 |
| | 宮沢 正人 | 岩手医科大学 歯学部 | 着色菌の発現に関する疫学的調査並びに判定基準について | 片山 剛 | 30 |
| | 高橋 紀子 | 東北大学 歯学部 | 1. 1~3 歳児における刷掃習慣とう蝕有病についての研究 2. 上下顎第一小臼歯における小窩裂溝の形態についての研究 3. 乳歯列におけるう蝕罹患型についての研究 | 島田 義弘 | 30 |
| | 小野澤裕彦 | 城西歯科大学 | クリアランステストを用いたう蝕スクリーニングのフィールドへの応用について | 中尾 俊一 | 30 |
| | 永瀬 吉彦 | 新潟県上越保健所 | 糖尿病患者の歯周疾患予防 | 厚生省 三井 男也 | 30 |
| | 西田 雅己 | 日本大学 歯学部 | 乳幼児歯科保健へのパーソナルコンピューターの導入に関する研究 | 吉田 茂 | 30 |
| | 平田 幸夫 | 神奈川歯科大学 | 近年微量元素とう蝕との関連性についての研究がされている。しかし現在明確にう蝕と関連性が確立しているのはフッ素のみである。そのような中でストロンチウム(Sr)とう蝕との関連性及びフッ素と共存した場合エナメル質へどのような影響をおよぼすかを動物実験を行うことにより知り合わせて結果からう蝕抑制効果の可能性を求める。 | 飯塚 喜一 | 30 |
| | 磯崎 篤則 | 岐阜歯科大学 | 1. 学校歯科保健におけるう蝕予防に関する研究 | 可児 瑞夫 | 30 |

| 年 | 氏名 | 助成時の所属 | 研究テーマ | 推薦者 | 支給額 万円 |
|------|-------|---------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------|-----------|
| 1984 | 加藤 一夫 | 愛知学院大学 歯学部 | 生検によるエナメル質溶解性測定法のスクリーニング・テストとしての評価 | 榊原 悠紀田郎 | 30 |
| 1985 | 紺井 拓隆 | 大阪歯科大学 | 表層エナメル質中のフッ化物保持に関する研究 | 小西 浩二 | 30 |
| | 福田 雅臣 | 日本歯科大学 | 重症心身障害児(者)の口腔内状況、全身状況、日常生活行動等の調査及び障害児保護者に対するアンケート調査を行い、歯科疾患と全身状況社会状況との関連性について検討を行っている | 辻 達彦 | 30 |
| | 山本 秀樹 | 東京歯科大学 | 1. ウ蝕原生菌(S.mutans)の酸発酵とその抑制機構について。 2. 現在のテーマは連続培養槽におけるs.mutansに及ぼす低濃度フッ化物の影響を追求している。 3. ウ蝕活動性の試験方法とその評価法に関する研究 | 高江洲 義矩 | 30 |
| | 本多 丘人 | 北海道大学 歯学部 | 制限酵素の切断法によるS.mutansの分子疫学的研究 | 谷 宏 | 30 |
| | 川口 陽子 | 東京医科歯科大学 | 歯刷子の消耗度に関する研究 | 岡田 昭五郎 | 30 |
| | 森田 学 | 岡山大学 歯学部 | 1. 歯垢中のプロテアーゼと歯石形成との関連について。 2. 歯周病予防のための公衆衛生学的研究 | 渡邊 達夫 | 30 |
| | 藤原 卓 | 国立予防衛生研究所 | 歯周病の新しい診断法の研究 | 厚生省 三井 男也 | 30 |
| | 鎌谷 研三 | 東京都杉並区東保健所 | 東京都特別区における乳幼児ウ蝕の動向 | 厚生省 三井 男也 | 30 |
| | 宮崎 秀夫 | 九州歯科大学 | 1. フッ素のエナメル質取り込みに関する研究 2. 摂取食品によるウ蝕活動性(唾液を媒体として) 3. 台湾高山族(先住民族)の歯科疾患の疫学的研究及び口腔の形質人類学的研究(歯列顎、口蓋形態の計測) 4. その他歯科疾患の疫学 | 佐伯 榮一 | 30 |
| | 堤 裕之 | 九州大学 歯学部 | Nd-YAGレーザーをヒト及びハムスターのエナメル質に照射するとエナメル質の耐酸性が増強されることが確かめられている。他方、フッ化物が耐酸性向上に有効であることはよく知られている。そこで両者併用によるエナメル質耐酸性増強効果について研究を行っている。 | 森岡 俊夫 | 30 |
| | 福岡 幸伸 | 朝日大学 歯学部 | 1. ウ蝕予防剤としてのフッ化チタン化合物に関する研究 2. 生体硬組織のX線結晶学的研究 3. フッ化物洗口法の基礎的研究 | 可児 瑞夫 | 30 |
| | 稲葉 大輔 | 岩手医科大学 歯学部 | 1. フッ素洗口終止におけるウ蝕予防効果の持続性の検討 2. 口腔レンサ球菌におけるフッ素感受性の研究 | 片山 剛 | 30 |
| | 瀧口 徹 | 新潟大学 歯学部 | 新潟県地域歯科保健データベースシステムの構築に関する研究 | 堀井 欣一 | 30 |
| | 竹下 哲生 | 大阪大学 歯学部 | ヒト歯肉溝由来の嫌気性菌の産生するノイラミニダーゼの基礎的研究 | 常光 旭 | 30 |
| | 村上 明継 | 東北大学 歯学部 | 口臭の客観的診断法について | 島田 義弘 | 辞退 |
| 1986 | 中矢 健二 | 大阪歯科大学 | 学校歯科保健活動における効率化とフィードバックシステムの導入について | 小西 浩二 | 30 |
| | 和田 聖一 | 北海道大学 歯学部 | ウ蝕症の発生と進行機序の解明、主として摂食食物との関りについて | 谷 宏 | 30 |

| 年 | 氏名 | 助成時の所属 | 研究テーマ | 推薦者 | 支給額 万円 |
|------|-------|-----------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------|-----------|
| 1986 | 田中 智子 | 神奈川歯科大学 | 無機イオン（とくにフッ素）と唾液、プラーク、ペリクルなどとの相互作用および歯質の保護作用について | 飯塚 喜一 | 30 |
| | 於保 孝彦 | 九州大学 歯学部 | レーザー照射によるヒトエナメル質の耐酸性向上のメカニズムに関する研究 | 森岡 俊夫 | 30 |
| | 品田佳世子 | 東京医科歯科大学 歯学部 | ラットの実験ウ蝕におけるYAGレーザー照射の効果 | 岡田昭五郎 | 30 |
| | 前原 玲子 | 徳島大学 歯学部 | 口腔内嫌気性菌の産生する collagenase の性質とその阻害物質の検索 | 中村 亮 | 30 |
| | 高垣 勝 | 大阪大学 歯学部 | 口腔嫌気性菌と唾液糖タンパク質との結合性 | 常光 旭 | 30 |
| | 川崎 浩二 | 長崎大学 歯学部 | フッ化物洗口がヒトエナメル質フッ素量とりこみへ与える影響 | 高木 興氏 | 30 |
| | 古川 潔 | 日本歯科大学 | 学童のウ蝕罹患状態はいまだ高率を示している。歯科保健指導を行っている。行う上でより良いスクリーニング法が見出されるならばウ蝕抑制及び治療を効果的に行う事ができると考えられる。そこでウ蝕活動性試験を行っているスクリーニング法と考え学童に行いウ蝕罹患の予測及びスクリーニング法としての有用性について検討を行っている。 | 辻 達彦 | 30 |
| | 成田あかり | 鹿児島大学 歯学部 | 口腔 Streptococcus salivarius の中にはスクロースから粘着性グルカンを合成するものがありますがこのユニークな不溶性グルカンの生化学的性状を調べるとともにこの種の S.salivarius と同様にスクロースに依存し、プラーク形成能とウ蝕原性を示すかどうかを明らかにしようとしている。 | 井上 昌一 | 30 |
| | 坂田真理子 | 岡山大学 歯学部 | 歯周疾患予防のための公衆衛生学的研究（特に大学生を対象として） | 渡邊 達夫 | 30 |
| | 大坪 充寛 | 鹿児島県加治木保健所 | 行政的歯科保健対策の普及度を加治木保健所管内等の幼児歯科検診を利用して推測する。又保健所歯科クリニックのあり方等もあわせて調査研究する。 | 厚生省 三井 男也 | 30 |
| 1987 | 斉藤 恵一 | 東北大学 歯学部付属病院 | 乳歯の咬耗と歯科疾患の関連性について | 島田 義弘 | 30 |
| | 上村 参生 | 大阪歯科大学 | フッ素の再石灰化に関する研究 | 小西 浩二 | 30 |
| | 問世田勇作 | 九州大学 歯学部 | Nd-YAG レーザを使用して、各種歯牙沈着物の除去。細菌性内毒素の生物学的活性の不活、又、その際の歯牙硬組織及び歯周軟組織の変化についての実験的研究を行い歯科における二大疾患であるウ蝕と歯周疾患の予防並びに進行阻止を目指す。 | 森岡 俊夫 | 30 |
| | 大川 由一 | 東京歯科大学 | (1) 地域歯科保健の現状とウ蝕の推移について (2) 白亜質 (Cementum) の化学的組織的性状の研究 | 高江洲義矩 | 30 |
| | 長田 齋 | 東京都大田区 大森保健所 | 1歳6ヶ月の時点の日常生活並びに口腔内の状況が、三歳迄のウ蝕の罹患に対して寄与する程度について同一集団の1歳6ヶ月児及び3歳児歯科健康診査結果をコホート資料として、相対危険 (relative risk) を指標に用いて分析し、1歳6ヶ月児歯科健康診査における的確な指導並びにスクリーニングの方法についての検討を行う。 | 厚生省 三井 男也 | 30 |
| | 天野 敦雄 | 大阪大学 歯学部付属病院 | Bacteroides gingivalis の産生するスーパーオキシドジスムターゼの精製とその性質 | 常光 旭 | 30 |

| 年 | 氏名 | 助成時の所属 | 研究テーマ | 推薦者 | 支給額 万円 |
|------|--------|-------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------|-----------|
| 1987 | 水野 照久 | 愛知学院大学 歯学部 | ウ蝕の発生要因の一つの歯質の面から性差を調べることを目的としてその為に各個人のエナメル質におけるフッ素濃度を知る。将来はエナメル生検法を利用しエナメル質層フッ素濃度の個人における差を調べる。 | 榊原悠紀田郎 | 30 |
| | 岸 洋志 | 新潟大学 歯学部付属病院 | 飲料水中フッ素濃度と永久歯ウ蝕ならびに斑状菌の関係について | 堀井 欣一 | 30 |
| | 原田 昭博 | 東京医科歯科大学 | マウスの実験ウ蝕における D-フェニルアラニン投与の影響 | 岡田昭五郎 | 30 |
| | 中山 司 | 北海道俱知安保健所 | 俱知安保健所における三歳児及び一歳六ヶ月のウ蝕罹患状況について。 | 厚生省 三井 男也 | 30 |
| | 天野三栄子 | 宮城県仙台市衛生局 南保健所 | 幼若永久歯のウ蝕予防について | 厚生省 三井 男也 | 30 |
| | 瀬川 洋 | 東京歯科大学 | ハムスターの実験歯周炎に関する研究 | 清水 秋雄 | 30 |
| | 前田 智男 | 城西歯科大学 | 歯科衛生教育に対する心理学的アプローチ | 中尾 俊一 | 30 |
| | 安東 美幸 | 九州歯科大学 | Streptococcus mutans のウ蝕病原性に関する研究 | 竹原 直道 | 30 |
| | 宇田川恵美子 | 神奈川歯科大学 | エナメル質再石灰化に及ぼすF濃度の影響について | 飯塚 喜一 | 30 |
| 1988 | 西原 達次 | 国立予防衛生研究所 | 歯周病の病因解明とその予防法の開発 | 厚生省 三井 男也 | 30 |
| | 山下 喜久 | 九州大学 歯学部 | 硬組織のアルカリホスファターゼについて | 竹原 直道 | 30 |
| | 三宅 達郎 | 大阪歯科大学 | (1) 合成ハイドロキシアパタイトへのタンパク質の吸着及び細菌の付着に関する界面電気化学的研究 (2) 各種フッ化物溶液及び各種界面活性剤処理後の合成ハイドロキシアパタイト表面性状に関する界面電気化学的研究 | 小西 浩二 | 30 |
| | 三浦 宏子 | 東日本学園大学 歯学部 | う蝕自然発生ラットモデルを用いた実験う蝕の研究 | 井藤 信義 | 30 |
| | 村上 幸孝 | 大阪大学 歯学部付属病院 | Bacteroides gingivalis と口腔レンサ球菌との凝集反応 | 常光 旭 | 30 |
| | 小原 陽子 | 東北大学 歯学部 | 口臭患者の口内気体中の有臭成分についての研究 | 島田 義弘 | 30 |
| | 大西 宏昭 | 大阪府八尾保健所 | 地域歯科保健活動のシステム化に関する研究 | 厚生省 三井 男也 | 30 |
| | 斉藤 俊行 | 九州大学 歯学部 | (1) 半導体微粒子の光触媒反応を利用した口腔細菌の殺菌 (2) He-Ne 低出力レーザーの <i>S.mutans</i> に対する殺菌効果 | 森岡 俊夫 | 30 |
| | 永田 篤司 | 徳島大学 歯学部 | Bacteroides gingivalis の血清学的型別と分布及び特異抗原に関する研究 | 中村 亮 | 30 |
| | 佐々木好幸 | 東京医科歯科大学 歯学部 | 高蔗糖食餌がラットの行動の概日リズムに及ぼす影響について | 岡田昭五郎 | 30 |
| | 中永 大喜 | 長崎大学 歯学部 | mycoplasma Salivariumum の口腔粘膜への病因論的な役割 | 高木 興氏 | 30 |
| | 小林 秀人 | 新潟大学 歯学部 | 成人における欠損歯数と咀嚼能力等との関連について | 堀井 欣一 | 30 |
| | 加藤 裕久 | 朝日大学 歯学部 | う蝕予防のためのフッ化物局所応用法について | 可児 瑞夫 | 30 |
| | 小野澤裕彦 | 明海大学 歯学部 | プラークの酸産生能に及ぼすF化物の影響について—特に biological な側面から | 中尾 俊一 | 30 |

| 年 | 氏名 | 助成時の所属 | 研究テーマ | 推薦者 | 支給額 万円 |
|-------|-------------|-----------------------------------|-------------------------------------------------------|--------------|-----------|
| 1989 | 木本 一成 | 神奈川歯科大学 | フッ化物応用によるエナメル質表層でのアルカリ可溶性及び不溶性フッ素について | 飯塚 喜一 | 30 |
| | 河合 智子 | 愛知県岡崎保健所 | 東海地区における歯科保健データベース開発に関する研究 | 中垣 晴夫 | 30 |
| | 永田 英樹 | 大阪大学 歯学部付属病院 | 口腔細菌の共凝集現象を抑制する物質に関する研究 | 常光 旭 | 30 |
| | 宮城 昌治 | 広島大学 歯学部付属病院 | 思春期性歯肉炎と性ホルモン—多形核白血球の機能に及ぼす影響— | 岩本 義史 | 30 |
| | 岡崎真奈美 | 岡山大学 歯学部 | 歯科公衆衛生における方法論の検討 | 渡邊 達夫 | 30 |
| | 奥野 雅典 | 岐阜県岐阜市衛生部 中央保健所 | 岐阜市在宅寝たきり老人歯科保健事業について | 厚生省 三井 男也 | 30 |
| | 脇坂 仁美 | 東日本学園大学 歯学部 | ヒト混合唾液中の酵素活性と糖発酵性・口腔レンサ球菌叢との関係について | 上田 五男 | 30 |
| | 新谷 裕久 | 朝日大学 歯学部 | フッ化アンモニウム溶液のエナメル質におよぼす影響について | 可児 瑞夫 | 30 |
| | 福田 雅臣 | 日本歯科大学 歯学部 | 成人、老人の歯科保健状況と栄養摂取との関連性 | 丹羽 源男 | 30 |
| | 好川 正 | 長崎大学 歯学部 | 脱灰エナメル質の再石灰化に及ぼすレーザーの影響 | 高木 興氏 | 30 |
| | 杉原 直樹 | 東京歯科大学 | 成人及び老年者の食品摂取受容に関する研究 | 高江洲義矩 | 30 |
| 窪田 明久 | 奥羽大学 歯学部 | 歯肉溝滲出液の Fe、Mg、Na、K 濃度と歯周疾患状態との関連性 | 清水 秋雄 | 30 | |
| 1990 | 上村 参生 | 大阪歯科大学 | フッ化処理後の合成ハイドロキシアパタイトの表面性状について | 小西 浩二 | 30 |
| | 増井 和泉 | 北海道稚内保健所 | 妊婦の口腔内状態に対する意識 | 厚生省 宮武 光吉 | 30 |
| | 田代 悦章 | 東京歯科大学 | 口腔細菌のフッ素適応性に関する研究 | 高江洲義矩 | 30 |
| | 高橋 一郎 | 国立予防衛生研究所 | 蛋白質工学を利用したウ蝕ワクチンの開発 | 厚生省 宮武 光吉 | 30 |
| | 白浜 立二 | 九州歯科大学 | 施設入居老人の口腔健康状態および治療の必要性に関する研究 | 竹原 直道 | 30 |
| | 安藤 雄一 | 新潟大学 歯学部 | フッ素洗口法の普及とウ蝕有病状況の地域格差に関する研究 | 堀井 欣一 | 30 |
| | 兼平 孝 | 北海道大学 歯学部 | カラム法による唾液蛋白と口腔細菌の関係に関する研究 | 谷 宏 | 30 |
| | 尾崎 哲則 | 日本大学 歯学部 | スクロースクリアランスのウ蝕活動性試験への応用 | 吉田 茂 | 30 |
| | 田中 園治 | 明海大学 歯学部 | 歯垢中 MFP イオンおよびフッ素イオンの動態と歯垢の酸産生との関連性について | 中尾 俊一 | 30 |
| | 竹歳 真人 | 鹿児島大学 歯学部付属病院 | 歯性全身感染症の成立機序に関する研究 | 井上 昌一 | 30 |
| | 山田 弘倫 | 神奈川歯科大学 | H A と F との反応条件による CaF ₂ と F A (FHA) 生成率との差 | 飯塚 喜一 | 30 |
| | 山崎 明宏 | 福岡歯科大学 | 歯と顎骨の大きさの不調和とウ蝕ならびに歯周疾患に関する疫学的研究 | 境 脩 | 30 |
| 1991 | 林 裕行 | 徳島大学 歯学部 | Porphyromonas gingivalis の赤血球凝集因子に対するレセプター蛋白の検索 | 中村 亮 | 50 |
| | 堀内 欣治 | 神奈川県厚木保健所 | 管内地域の2歳児歯科診療における幼児の齲蝕罹患状況について | 厚生省 宮武 光吉 | 50 |
| | 岡崎 佳生 | 和歌山県湯浅保健所 | 咬合と脊椎側彎を疑う姿勢異常との関係について | 厚生省 宮武 光吉 | 50 |

| 年 | 氏名 | 助成時の所属 | 研究テーマ | 推薦者 | 支給額 万円 |
|-------|--------|---------------------|-------------------------------------------------------------------|---------------|-----------|
| 1991 | 田口 円裕 | 長崎大学 歯学部 | 人工口腔モデルを用いた食品の齶蝕原性の評価 | 高木 興氏 | 50 |
| | 廣瀬 公治 | 東日本学園大学 歯学部 | 歯周疾患活動性試験の確立 | 上田 五男 | 50 |
| | 石本 隆 | 大阪大学 歯学部付属病院 | ヒスタチンと <i>Porphyromonas gingivalis</i> と結合性 | 常光 旭 | 50 |
| | 福田 雅臣 | 日本歯科大学 | 成人保健における歯科保健の重要性の検討 | 丹波 源男 | 50 |
| | 森 洋一 | 九州大学 歯学部 | SZ 誘発糖尿病ハムスターの齶蝕の重症化に関する研究 | 森岡 俊夫 | 50 |
| | 高嶋 剛 | 東京医科歯科大学 歯学部 | 実験う蝕におけるセルロースとペクチンの影響について | 岡田昭五郎 | 50 |
| | 大橋たえみ | 朝日大学 歯学部 | 各種フッ化物溶液の歯に及ぼす影響について | 可児 瑞夫 | 50 |
| 1992 | 山本 龍生 | 岡山大学 歯学部 | 歯石形成のメカニズムの解明 | 渡邊 達夫 | 50 |
| | 矢野 正敏 | 新潟大学 歯学部 | CPITN を用いた中学生の歯肉炎予防管理に関する研究 | 堀井 欣一 | 50 |
| | 池田 康子 | 東京歯科大学 | 妊娠性歯齦炎の発病に関する口腔細菌・歯周組織液および唾液分泌の研究 | 高江洲義矩 | 50 |
| | 井後 純子 | 愛知県豊橋保健所 | 保健所における成人歯科保健対策事業の取り組みについての一考察 | 厚生省 宮武 光吉 | 50 |
| | 日田 昇一 | 函館市市立 函館保健所 | 歯科衛生士による訪問歯科保健指導の効果 | 厚生省 宮武 光吉 | 50 |
| | 千木良あき子 | 昭和大学 歯学部 | 咀嚼機能の発達に関する研究—とくに口唇圧について— | 金子 芳洋 | 50 |
| | 唐鎌 史行 | 日本大学 歯学部 | ヒトエナメル質初期う蝕の形態学的研究 | 吉田 茂 | 50 |
| | 安藤 昌俊 | 大阪歯科大学 | 合成ハイドロキシアパタイトへのタンパク質吸着に及ぼすフッ素系界面活性剤の影響 | 小西 浩二 | 50 |
| | 植野 正之 | 東京医科歯科大学 歯学部付属病院 | 小児のう蝕に関わる要因の多変量的解析 | 岡田昭五郎 | 50 |
| | 浅沼 慎 | 東北大学 歯学部 | 各種洗口液の歯垢 pH と歯質の脱再石灰化に対する影響について | 坂本征三郎 | 50 |
| | 1993 | 大塚 義顕 | 昭和大学 歯学部 | 咀嚼・嚥下時の舌運動の評価 | 金子 芳洋 |
| 坪井 信二 | | 愛知学院大学 歯学部 | 歯のセメント質におけるマグネシウム濃度分布についての研究 | 中垣 晴夫 | 50 |
| 山口 登 | | 九州大学 歯学部 | 歯周病の簡易診断法の開発 | 古賀敏比古 | 50 |
| 森岡 昌美 | | 徳島大学 歯学部 | <i>Porphyromonas gingivalis</i> のヒト歯肉線維芽細胞に対する病原性 | 中村 亮 | 50 |
| 安細 敏弘 | | 九州歯科大学 | <i>Actinobacillus actinomycetemcomitans</i> の酸性フォスファターゼ遺伝子のクローニング | 竹原 直道 | 50 |
| 矢澤 正人 | | 東京都杉並区西保健所 | 成人歯科検診の有効性に関する研究 | 厚生省 佐治 靖介 | 50 |
| 今西 秀明 | | 大阪府環境保健部 保健予防課 | 高齢化社会における口腔保健・医療のあり方 | 厚生省 佐治 靖介 | 50 |
| 山口 和己 | | 神奈川歯科大学 | フッ化物配合歯磨剤使用後の口腔内残留フッ素量の研究 | 飯塚 喜一 | 50 |
| 松本 勝 | | 明海大学 歯学部 | 老人の QCL に及ぼす歯科保健の影響評価に関する研究 | 中尾 俊一 | 50 |

| 年 | 氏名 | 助成時の所属 | 研究テーマ | 推薦者 | 支給額 万円 |
|-------|-------|-------------------|------------------------------------------------------------------|--------------------------------|-----------|
| 1994 | 井川 恭子 | 東北大学 歯学部 | 1~3歳児外来患者を対象としたフッ化物局所応用に関する研究 | 坂本征三郎 | 50 |
| | 寺嶋 利子 | 日本大学 歯学部 | イオン化カルシウムの歯垢抑制効果について | 吉田 茂 | 50 |
| | 河端 邦夫 | 広島大学 歯学部 | 1歳6ヶ月児の歯に関する健康指標の開発 | 岩本 義史 | 50 |
| | 西 一也 | 岡山大学 歯学部 | ヒト歯肉毛細血管内皮細胞の機械的刺激に対する応答性 | 渡邊 達夫 | 50 |
| | 岸 重人 | 日本歯科大学 | 不正咬合の疫学的研究 | 丹波 源男 | 50 |
| | 小島 美樹 | 大阪大学 歯学部 | 歯肉縁下細菌叢の動画像解析による歯周疾患活動性の評価 | 雫石 聰 | 50 |
| | 泉福 英信 | 国立予防衛生研究所 | S.mutans の表層蛋白質抗原分子の繰り返し領域における T 細胞エピトープモチーフの解析 | 厚生省 佐治 靖介 | 50 |
| | 石井 直美 | 東京都大田区 保健衛生部 | 保育園における歯科保健活動の今後のあり方について | 厚生省 佐治 靖介 | 50 |
| 1995 | 月岡 祐一 | 九州大学 歯学部 | う蝕細菌の病原因子発現調節に関する分子生物学的研究 | 古賀敏比古 | 50 |
| | 高柳 篤史 | 東京歯科大学 | 唾液中微量元素濃度による生物学的モニタリング | 高江洲義矩 | 50 |
| | 金本 大成 | 鹿児島大学 歯学部 | 抗う蝕ワクチンの開発に関する基礎研究 | 井上 昌一 | 50 |
| | 加藤 恭裕 | 九州歯科大学 | 疫学的評価方法を用いた不正咬合の発現状況の比較研究 | 竹原 直道 | 50 |
| | 松崎 伸江 | 大阪歯科大学 | 歯周疾患を考慮した歯科医療需要の分析 | 神原 正樹 | 50 |
| | 可児 光宏 | 朝日大学 歯学部 | Dental Explorer の先端形態の変化と触診圧との関係について | 可児 瑞夫 | 50 |
| | 井下 英二 | 滋賀県健康福祉部 健康対策課 | 生涯を通じた歯科保健情報管理システムの開発 | 厚生省 佐治 靖介 | 50 |
| | 木村 恵子 | 東京都中央区中央保健所 | 親子歯科検診による母親の歯科保健行動の変化について | 厚生省 佐治 靖介 | 50 |
| 1996 | 渡辺 聡 | 昭和大学 歯学部 | 食品の粘稠性が嚥下時舌運動に及ぼす影響 | 金子 芳洋 | 50 |
| | 加藤 尚一 | 愛知学院大学 歯学部 | 実務的骨粗鬆症ラットに対するフッ素の影響 | 中垣 晴夫 | 50 |
| | 佐藤 誠子 | 奥羽大学 歯学部 | ポーレイ茶抽出物によるプラーク付着抑制効果について | 楠 憲治 | 50 |
| | 葭原 明弘 | 新潟大学 歯学部附属病院 | う蝕低レベル集団における有効なリスク診断法に関する研究 | 宮崎 秀夫 | 50 |
| | 林田 秀明 | 長崎大学 歯学部 | IS 200 様配列を用いた Actinobacillus action-mycetecomitans のタイプ分けに関する研究 | 高木 興氏 | 50 |
| | 川村 和章 | 神奈川歯科大学 | フッ素洗口後の口腔内フッ素保持に関する研究 | 飯塚 喜一 | 50 |
| | 大和香奈子 | 徳島大学 歯学部 | Bacteroides forsythus の BAPNA の分解酵素 | 中村 亮 | 50 |
| | 中島 民恵 | 名古屋市衛生局 保健医療部 | 名古屋市における「なごやか健診(歯科健診)」の評価 | 厚生省 石井 拓男 | 50 |
| | 小関 健由 | 国立予防衛生研究所 | 歯周病の病態と解析と予防法の開発 | 厚生省 石井 拓男 | 50 |
| | 1997 | 竹原 順次 | 北海道大学 歯学部 | 質問紙法による摂取食品調査と咬合摂食面積および咬合力との関係 | 谷 宏 |
| 北村 雅保 | | 東京歯科大学 | 歯根面部の欠損と齲蝕に関わる Risk Factor の解析 | 高江洲義矩 | 50 |

| 年 | 氏名 | 助成時の所属 | 研究テーマ | 推薦者 | 支給額 万円 |
|------|-------|-------------------|---------------------------------------------------------|--------------|-----------|
| 1997 | 田中とも子 | 日本歯科大学 | ヒトエナメル質に及ぼす市販洗口剤の影響に関する比較検討 | 丹波 源男 | 50 |
| | 田中 宗雄 | 大阪大学 歯学部 | ブラッシングが歯周組織の微小循環機能に及ぼす効果 | 雫石 聰 | 50 |
| | 楠本 雅子 | 東北大学 歯学部 | ラットにおけるフッ素およびアルミニウムの吸収について | 坂本征三郎 | 50 |
| | 笠井 幸子 | 九州歯科大学 | モンゴロイドの歯列弓と口蓋の形態に関する形質人類学的研究 | 竹原 直道 | 50 |
| | 石崎 明 | 国立感染症研究所 口腔科学部 | 歯周病細菌によるマクロファージのアポトーシスの誘導に関する研究 | 厚生省 石井 拓男 | 50 |
| | 吉森 和宏 | 千葉県衛生部 保健予防課 | 市町村歯科衛生士研修ニーズに関する調査研究について | 厚生省 石井 拓男 | 50 |
| 1998 | 田村 文誉 | 昭和大学 歯学部 | 食事行動が動脈血酸素飽和度 (SPO2)、脈拍数に及ぼす影響 | 向井 美恵 | 40 |
| | 佐藤 豊 | 明海大学 歯学部 | 乳幼児の口腔機能の発達に関する観察的研究 | 安井 利一 | 40 |
| | 岩瀬 寧 | 神奈川歯科大学 | フッ化物配合フォームタイプ歯磨剤使用後の唾液中フッ素濃度 | 飯塚 喜一 | 40 |
| | 森田 一三 | 愛知学院大学 歯学部 | 高齢者における過去の食事生活習慣と保有歯数および骨密度の関係 | 中垣 晴夫 | 40 |
| | 吉田 康夫 | 九州大学 歯学部 | Actinobacillus actinomycetemcomitans における莢膜様多糖抗原の分子学的解明 | 古賀敏比古 | 40 |
| | 岡田 康子 | 鹿児島大学 歯学部 | Nutritionally Variant Streptococci の心内膜炎誘発能に関する研究 | 井上 昌一 | 40 |
| 2000 | 大橋 明石 | 奥羽大学 歯学部 | エナメル質の再石灰化に及ぼす TCP とレーザー照射の影響 | 楠 憲治 | 40 |
| | 野村登志夫 | 東京歯科大学 | 歯科用素材の安全性評価 | 高江洲義矩 | 40 |
| | 軽部 裕代 | 鶴見大学 歯学部 | ブラーク付着が及ぼす歯蝕数の増加について | 北村 中也 | 40 |
| | 石津恵津子 | 朝日大学 歯学部 | 小学校における 100ppmF フッ素物配合歯磨剤を用いた歯磨きプログラムの効果 | 可児 徳子 | 40 |
| | 片岡 宏介 | 大阪大学 歯学部 | 歯周病原性菌 Porphyromonas gingivalis と唾液タンパク質との結合機構との解明 | 雫石 聰 | 40 |
| | 堀内 正純 | 岡山大学 歯学部 | ブラッシングの機械的刺激によるイヌ歯肉組織におけるコラーゲン産生能 | 渡邊 達夫 | 40 |
| | 福本恵美子 | 長崎大学 歯学部 | キセノンアークランプを用いた迅速な歯蝕予防法の開発 | 高木 興氏 | 40 |
| 2001 | 中村 公也 | 北海道大学 歯学部 | 北海道内都市郡および郡部幼児の歯蝕有病状況 | 森田 学 | 30 |
| | 関 みつ子 | 日本大学 歯学部 | 口腔の清掃状態は歯蝕の発生に関連するか?—コホートの観察— | 山下 喜久 | 30 |
| | 石田 瞭 | 昭和大学 歯学部 | 摂食・嚥下機能障害者における嚥下時の口唇と舌運動の関連 | 向井 美恵 | 30 |
| | 飯島 靖暢 | 明海大学 歯学部 | 障害児における摂食・嚥下機能の発達について | 安井 利一 | 30 |
| | 薄井司文歩 | 神奈川歯科大学 | シーラント製材のフッ化物動態に関する研究 | 荒川 浩久 | 30 |
| | 犬飼 順子 | 愛知学院大学 歯学部 | ヒト歯石の結晶性と成分 | 中垣 晴夫 | 30 |
| | 津田 啓方 | 九州大学 歯学部 | Streptococcus mutans (S.mutans) のバシトラシン (Bac) 耐性機構の解明 | 古賀敏比古 | 30 |

| 年 | 氏名 | 助成時の所属 | 研究テーマ | 推薦者 | 支給額 万円 |
|------|-------|------------------|-------------------------------------------------------------|-------|-----------|
| 2001 | 岡山 秀仁 | 鹿児島大学 歯学部 | 口腔細菌の全身感染症に関する研究 | 井上 昌一 | 30 |
| 2002 | 小林美智代 | 北海道医療大学 歯学部 | Porphyromonas gingivalis の微細血管における RANKEL および OPG の発現誘導 | 千葉 逸郎 | 30 |
| | 有明 幹子 | 東京医科歯科大学 大学院 | 口腔保健状況および口腔機能と食生活を中心とした生活習慣との関連性の分析 | 川口 陽子 | 30 |
| | 小関真理子 | 東京歯科大学 | ドライマウスとドライアイ患者のアクアポリンに関する研究 | 松久保 隆 | 30 |
| | 大橋たみえ | 朝日大学 歯学部 | 高校生へのう蝕及び歯周疾患のリスクと歯科保健意識行動 | 可児 徳子 | 30 |
| | 川崎 浩二 | 大阪歯科大学 | エナメル質吸収タンパク質の表面構造 | 神原 正樹 | 30 |
| | 久保庭雅恵 | 大阪大学 歯学部 | 歯周病原性菌 Porphyromonas gingivalis の鉄獲得機構に関する研究 | 雫石 聡 | 30 |
| | 横山 正明 | 徳島大学 歯学部 | Campylobacter rectus 鞭毛の歯周病原性 | 中村 亮 | 30 |
| | 栗野 秀慈 | 九州歯科大学 | 歯周炎における血管内皮由来収縮因子エンドセリンの役割の解明 | 竹原 直道 | 30 |
| 2003 | 三宅 亮 | 北海道大学 歯学部附属病院 | キシリトール配合ガムの再石灰化に及ぼす影響 | 森田 学 | 30 |
| | 阿部 智 | 東京医科歯科大学 大学院 | マスメディアによる歯科健康情報の分析と評価に関する研究 | 川口 陽子 | 30 |
| | 戸田 真司 | 神奈川歯科大学 | 中国南昌市の飲料品のフッ化物含有量の研究 | 荒川 浩久 | 30 |
| | 永井 明子 | 明海大学 歯学部 | 歯槽骨形態が歯の喪失に及ぼす影響について | 安井 利一 | 30 |
| | 原 明美 | 昭和大学 歯学部 | 筋萎縮性側索硬化症 (ALS) 患者に対する口腔のケア支援 | 向井 美恵 | 30 |
| | 前田 和彦 | 大阪大学 大学院 | 広範囲の口腔常在菌が持つアドヘジンによる歯周病原生バイオフィルムの形成阻害に関する研究 | 雫石 聡 | 30 |
| | 濱寄 朋子 | 九州歯科大学 | 若年者に発生する Toothwear のリスク因子に関する研究 | 竹原 直道 | 30 |
| | 晴佐久 悟 | 福岡歯科大学 | 歯科診療所における禁煙誘導プログラムの開発 | 埴岡 隆 | 30 |
| 2004 | 高橋 雅洋 | 岩手医科大学 歯学部 | 舌苔の微生物叢の検討 | 米満 正美 | 30 |
| | 鷺尾 淳平 | 東北大学 歯学部 | 舌苔中の硫化水素産生菌と口臭との関連について | 小関 健由 | 30 |
| | 長岡 正博 | 奥羽大学 歯学部 | 小窩裂溝要予防充填材としてのリン酸カルシウム塩の応用性について | 宮沢 忠蔵 | 30 |
| | 川戸 貴行 | 日本大学 歯学部 | Streptococcus sobrinus の歯面付着における菌体表層タンパクの機能解析 | 前野 正夫 | 30 |
| | 川村 和章 | 神奈川歯科大学 | 各種修復材料のフッ化物吸収と放出に関する研究 | 荒川 浩久 | 30 |
| | 小川 裕司 | 新潟大学 歯学部 | 高齢者の歯周病に対する血清ビタミンCの影響 | 宮崎 秀夫 | 30 |
| | 岩田 幸子 | 朝日大学 歯学部 | 子どもの歯磨剤使用開始年齢についての養育者の認識 | 磯崎 篤則 | 30 |
| | 友藤 孝明 | 岡山大学 歯学部 | 電動歯ブラシの温熱条件が歯肉組織に与える研究 | 渡邊 達夫 | 30 |
| | 深町はるか | 九州大学 歯学部 | 侵襲性歯周炎の原因菌である Actinobacillus actinomycetemcomitans の付着因子の解析 | 山下 喜久 | 30 |

| 年 | 氏名 | 助成時の所属 | 研究テーマ | 推薦者 | 支給額 万円 |
|------|----------|-----------------|-----------------------------------------------------------|-------|-----------|
| 2005 | 古川 清香 | 東京医科歯科大学 大学院 | タバコと歯科疾患に関する健康情報の行動科学的分析 | 川口 陽子 | 30 |
| | 上条 和子 | 神奈川県歯科大学 | 市販緑茶飲料の潜在的脱灰抑制能 | 平田 幸夫 | 30 |
| | 深井 智子 | 明海大学 歯学部 | 母乳中のう蝕誘発因子と抑制因子について | 安井 利一 | 30 |
| | 西田 伸子 | 大阪大学 大学院 | 歯周疾患に及ぼす煙草煙の影響 | 雫石 聰 | 30 |
| | 新屋敷真実 | 九州歯科大学 | 唾液中バイオマーカーを用いた口腔乾燥症評価法の開発 | 竹原 直道 | 30 |
| | 江国 大輔 | 岡山大学 大学院 | 機械的刺激による歯周組織の遺伝子発現 | 渡邊 達夫 | 30 |
| | 鴨田 剛司 | 日本歯科大学 歯学部 | 歯周病における骨吸収過程での硫化水素の役割 | 八重垣 健 | 30 |
| 2006 | 相田 潤 | 北海道大学 大学院 | 3歳児う蝕における「二極化」における傾向の検討 | 森田 学 | 30 |
| | 山田 雄大 | 東北大学 大学院 | 初期う蝕の客観的数値評価とう蝕リスクの瞬時評価の開発 | 小関 健由 | 30 |
| | 伊藤 僚子 | 東京医科歯科大学 大学院 | 食のQOLと口腔保健状況との関連について | 川口 陽子 | 30 |
| | 末續 真弓 | 明海大学 大学院 | 口臭原因物質が歯周炎の病態の憎悪へ関与する可能性の検討 | 安井 利一 | 30 |
| | 鈴木 晴子 | 日本歯科大学 | 唾液中酵素と歯周病との関連一年代別・現在指数別の検討 | 八重垣 健 | 30 |
| | 村田 尚道 | 昭和大学 歯学部 | 総合失調症患者の口臭の実態と口腔内環境との関連について | 向井 美恵 | 30 |
| | 山賀 孝之 | 新潟大学 医歯学総合病院 | 口腔内揮発性硫化物濃度測定による歯周病診断 | 宮崎 秀夫 | 30 |
| | 山本裕美子 | 大阪大学 大学院 | 歯周疾患に及ぼす能動喫煙および受動喫煙の影響 | 雫石 聰 | 30 |
| | 山本 未陶 | 福岡歯科大学 | 学齢期における歯周炎予防を通じた自己管理スキル向上により将来の生活習慣病に備える行動変容能力を育成する | 埴岡 隆 | 30 |
| | 大澤 良 | 九州歯科大学 | LAMP法を用いた <i>Actinobacillus actinomycescomitans</i> の迅速検出 | 竹原 直道 | 30 |
| 2007 | 栃内 圭子 | 岩手医科大学 大学院 | 呼気中アセトン濃度と糖尿病のコントロールとの関係 | 米満 正美 | 30 |
| | 柳澤 智仁 | 東京医科歯科大学 大学院 | 禁煙による歯周疾患罹患リスクの変化に関する研究 | 川口 陽子 | 30 |
| | 濃野 要 | 新潟大学 大学院 | 植物由来プロテアーゼは舌苔及び口臭を減少させる | 宮崎 秀夫 | 30 |
| | 稲垣 芳佳 | 大阪大学 大学院 | ユーカリ抽出物による歯周病予防効果及び口臭予防効果に関する研究 | 雫石 聰 | 30 |
| | 酒井 怜子 | 大阪歯科大学 | 口腔内環境が初期う蝕に及ぼす影響 | 神原 正樹 | 30 |
| | 松尾(川田)美樹 | 九州大学 大学院 | 耐酸性とバイオフィーム形成に関わる二成分制御系を阻害する抗う蝕剤の開発 | 山下 喜久 | 30 |
| | 峰岡 哲郎 | 九州歯科大学 | 歯周病患者に対する細菌検査の診断基準の確立 | 竹原 直道 | 30 |
| | 戸田 真司 | 神奈川県歯科大学 | フッ化物配合歯磨剤の種類と唾液中フッ素残留量の関係 | 荒川 浩久 | 30 |
| | 榊原 康人 | 愛知学院大学 大学院 | 歯の健康づくり得点による住民の喪失歯予防の介入研究 | 中垣 晴夫 | 30 |

| 年 | 氏名 | 助成時の所属 | 研究テーマ | 推薦者 | 支給額 万円 |
|------|-------|-----------------|-------------------------------------------------------------|-------|-----------|
| 2008 | 田谷かおる | 奥羽大学 歯学部 | トレハロースの歯周疾患予防への応用を目指して | 廣瀬 公治 | 30 |
| | 杉 陽子 | 明海大学 歯学部 | 顎関節障害に対する効果的な学校保健教育及び管理の為の疫学研究 | 安井 利一 | 30 |
| | 伊井 久貴 | 日本歯科大学 生命歯学部 | 揮発性硫黄化合物によるヒト破骨細胞への分化機構の解明 | 八重垣 健 | 30 |
| | 荒川 勇喜 | 神奈川歯科大学 大学院 | 低濃度フッ化物溶液による歯磨き後の齲蝕予防効果 | 平田 幸夫 | 30 |
| | 藤垣 佳久 | 松本歯科大学 | 喫煙本数及びニコチン摂取の量依存的な研究調査 | 柳澤 茂 | 30 |
| | 岩崎 未央 | 大阪大学 大学院 | 歯周病細菌感染における多機能たんぱく質GAPDHの働きに関する研究 | 雫石 聰 | 30 |
| | 山中 玲子 | 岡山大学 病院 | 小学生の口唇閉鎖力と視力に関する研究 | 森田 学 | 30 |
| | 福井 誠 | 徳島大学 大学院 | フゾバクテリウム反応性唾液sIgA抗体が舌苔の形成に及ぼす影響 | 伊藤 博夫 | 30 |
| 2009 | 福浦えり子 | 明海大学 歯学部 | 高校生を対象としたマウスガードを用いた安全教育の効果について | 安井 利一 | 30 |
| | 酒寄 孝治 | 東京歯科大学 大学院 | 自立高齢者および要介護高齢者の口腔保健および口腔機能の実態とその改善・向上プログラムの検討 | 石井 拓男 | 30 |
| | 青山いずみ | 日本歯科大学 生命歯学部 | 口臭原因物質による骨芽細胞増殖抑制機構の解析 | 八重垣 健 | 30 |
| | 小西 千里 | 東京医科歯科大学 大学院 | 脳神経外科病棟入院患者に対する専門的口腔ケアの介入効果に関する研究 | 川口 陽子 | 30 |
| | 橋野 恵衣 | 大阪大学 大学院 | 歯周病原因性バイオフィルム形成におけるStreptococcusgordonii コリスミ酸結合性タンパク質の機能解析 | 雫石 聰 | 30 |
| | 竹内 倫子 | 岡山大学 大学院 | 成人性歯周病の進行と咬合力の関係 | 森田 学 | 30 |
| | 高橋 優介 | 九州歯科大学 大学院 | 舌苔における口臭関連遺伝子の発現解析 | 竹原 直道 | 30 |
| 2010 | 神尾 宣昌 | 日本大学 歯学部 | 脂肪細胞由来サイトカイン歯周疾患に及ぼす影響の解明 | 前野 正夫 | 30 |
| | 岡田 彩子 | 鶴見大学 歯学部 | 活性酸素に影響を受けるS.Mutans菌体内蛋白質に対するプロテオーム解析 | 花田 信弘 | 30 |
| | 奥山奈保子 | 新潟大学 大学院 | 高齢者の咬合状態と体力に関する経年評価 | 宮崎 秀夫 | 30 |
| | 大岡 貴史 | 昭和大学 歯学部 | 幼児期の食環境・療育環境と幼児の心理的変動との関連についての縦断研究 | 向井 恵美 | 30 |
| | 入江浩一郎 | 岡山大学 大学院 | 慢性的な咬合異常が顎下腺組織に及ぼす影響 | 森田 学 | 30 |
| | 富岡未記子 | 九州大学 大学院 | 経管栄養施行高齢者の口腔フローラが全身の健康状態に及ぼす影響の解明 | 山下 喜久 | 30 |
| | 田口 千穂 | 神奈川歯科大学 大学院 | 炎症状態に及ぼすフッ化物の機能分析 | 荒川 浩久 | 30 |
| 2011 | 岩崎 正則 | 新潟大学 医歯学総合病院 | 抗炎症・抗酸化作用を有する栄養素が歯周病の発症・進行に及ぼす影響の解明 | 宮崎 秀夫 | 30 |
| | 松井 美樹 | 岩手医科大学 歯学部 | 糖質摂取が口腔内細菌由来の口臭に及ぼす影響 | 米満 正美 | 30 |
| | 本橋 純 | 鶴見大学 歯学部 | フッ化物徐法シーラント材から徐放されたフッ化物イオンの移行について | 鶴本 明久 | 30 |
| | 竹内 晋 | 東京医科歯科大学 歯学部 | 洗口吐出液の濁度を応用した口腔保健状況の評価法の開発 | 川口 陽子 | 30 |

| 年 | 氏名 | 助成時の所属 | 研究テーマ | 推薦者 | 支給額 万円 |
|-------|-------|---------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------|-----------|
| 2011 | 園田 央瓦 | 長崎大学 大学院 | 職域中年男性における口腔内所見と全身健康状態の関連 | 齋藤 俊行 | 30 |
| | 寺谷 豪 | 九州歯科大学 | 血液透析患者の口腔と全身健康に関する研究 | 安細 敏弘 | 30 |
| 2012 | 大澤多恵子 | 神奈川歯科大学 大学院 | フッ化物配合歯磨き剤使用後の口腔環境中フッ化物保持に対する少量洗口の影響 | 荒川 浩久 | 30 |
| | 大貫 茉莉 | 東京医科歯科大学 歯学部付属病院 | 児童・生徒の味覚感受性の低下に関する研究 | 川口 陽子 | 30 |
| | 安永 愛 | 九州歯科大学 | う蝕細菌 <i>S. mutans</i> と口腔連鎖球菌 <i>Streptococcus gordonii</i> を培養した際に <i>S. Mutans</i> に発現するタンパク質の解析 | 安細 敏弘 | 30 |
| | 粕山 健太 | 岡山大学 大学院 | 歯周炎患者に対する水素水摂取の介入試験 | 森田 学 | 30 |
| | 高橋 明子 | 明海大学 大学院 | 頸部輪郭抽出法による喉頭運動の検出 | 安井 利一 | 30 |
| | 石塚 洋一 | 東京歯科大学 | う蝕ハイリスク部位の再石灰化および歯質強化処置に関する研究 | 松久保 隆 | 30 |
| | 岩崎 理浩 | 長崎大学 大学院 | 歯周病と各種歯周病細菌の血清抗体価および動脈硬化との関連性について | 齋藤 俊行 | 30 |
| | 水谷 慎介 | 岡山大学 大学院 | 大学生における口腔乾燥が歯周疾患やう蝕に与える影響分析 | 森田 学 | 30 |
| 2013 | 岡田 実緒 | 日本歯科大学 生命歯学部 | 生体幹細胞膀胱分化における硫化水素の影響 | 八重垣 健 | 30 |
| | 中村 文彦 | 愛知学院大学 歯学部 | Sense of Coherence が口腔健康状態の自己評価や歯科受診行動の変容に及ぼす影響の解明 | 嶋崎 義浩 | 30 |
| | 中村 卓 | 九州歯科大学 | <i>St. anginosus</i> の β C-S lyase の腫瘍形成における病院論的役割の解析 | 安細 敏弘 | 30 |
| | 横原 治 | 北海道医療大学 歯学部 | 歯周病原菌による歯周組織のエピジェネティクス機構の解明 | 千葉 逸郎 | 30 |
| | 伊藤 奏 | 東北大学 大学院 | 高齢者の口腔の健康格差と地域所得の関連—個人データの比較 | 小坂 健 | 30 |
| | 2014 | 沖野雄一郎 | 北海道大学 病院 | Na,K-ATPase に対するフッ素、ベリウム及びアルミニウムの作用 | 本田 丘人 |
| 竹内 洋輝 | | 大阪大学 歯学部付属病院 | 歯肉上皮細胞に侵入した歯周病原性細菌の細胞内動態の解析 | 天野 敦雄 | 30 |
| 佐藤 涼一 | | 東京歯科大学 | 唾液腺培養細胞の時計遺伝子発現解析 | 杉原 直樹 | 30 |
| 中井久美子 | | 日本大学 歯学部 | 歯周病由来の炎症性物質が脂肪細胞の肥大に及ぼす影響の解明 | 前野 正夫 | 30 |
| 松山 祐輔 | | 東北大学 大学院 | 医療費自己負担免除と歯科受診格差の関連—東日本大震災から検討 | 小坂 健 | 30 |
| 大城 暁子 | | 東京医科歯科大学 歯学部付属病院 | 実験動物を用いた口腔組織における FDC-SP の機能解析 | 川口 陽子 | 30 |
| 野村 綾 | | 九州歯科大学 | ADAMs を標的とした歯周病予防・治療戦略の検討 | 安細 敏弘 | 30 |
| 2015 | | 町田 達哉 | 岡山大学 大学院 | 唾液中エクソソームに含まれる microRNA の加齢マーカーとしての有効性の検討 | 森田 学 |
| | 小山史穂子 | 東北大学 大学院 | 人々のつながり“ソーシャル・キャピタル”によって口腔の健康格差を是正できるか | 小坂 健 | 30 |
| | 佐藤 俊郎 | 岩手医科大学 大学院 | 地域高齢者における口腔 Candida 菌の分布状況および経年的変化の観察 | 三浦 廣行 | 30 |
| | 財津 宗 | 東京医科歯科大学 大学院 | 閉鎖・隔離環境における口腔セルフケアプログラム開発に関する研究 | 川口 陽子 | 30 |

| 年 | 氏名 | 助成時の所属 | 研究テーマ | 推薦者 | 支給額 万円 |
|------|-------|--------------------------|-------------------------------------------------|-------|-----------|
| 2015 | 片岡 正太 | 九州歯科大学 | 口腔内疾患構造の未来予測モデル構築にむけた時系列的解析の試み | 安細 敏弘 | 30 |
| 2016 | 植原 治 | 北海道医療大学 歯学部 | 口腔細菌によるペーチュット病発症の解明 | 千葉 逸郎 | 30 |
| | 静間 夕香 | 東京医科歯科大学 大学院 | 歯肉炎予防を目的とした口腔内認識型の歯科健康教育プログラムの開発 | 川口 陽子 | 30 |
| | 堀 譲 | 神奈川歯科大学 大学院 | 高齢者に対するオーダーメイドトレーによるフッ化物ゲル塗布法の安全性 | 荒川 浩久 | 30 |
| | 鈴木誠太郎 | 東京歯科大学 | 長期的なメンテナンスが歯の喪失に与える効果の解明 | 杉原 直樹 | 30 |
| | 片岡 正太 | 岡山大学 病院 | 歯周組織における骨芽細胞と口腔常在菌の相互作用 | 森田 学 | 30 |
| | 影山 伸哉 | 九州大学 大学院 | 口腔粘膜免疫が乳幼児口腔マイクロバイオームの変動に及ぼす影響 | 山下 喜久 | 30 |
| | 西條 光雅 | 明海大学 大学院 | 介護老人施設入居者の食事形態と口腔ケアの関連性に関する検討 | 安井 利一 | 30 |
| 2017 | 小幡 純子 | 鹿児島大学 大学院 | 新規根面う蝕細菌種を標的とした高齢者 QOL 向上法の開発 | 於保 孝彦 | 30 |
| | 福原 大樹 | 岡山大学 大学院 | 常在菌が唾液腺の感染防御機構に与える影響 | 森田 学 | 30 |
| | 玉原 亨 | 東北大学 大学院 | 歯周病菌による動脈瘤形成機序の解明および新たな予防上の開発 | 小関 健由 | 30 |
| | 野々山順也 | 愛知学院大学 歯学部 | 児童に対する口腔保健指導における唾液検査の有用性の検討 | 嶋崎 義浩 | 30 |
| | 新井 優花 | 福岡県福岡市 保健福祉局 健康医療部 | 児童う蝕の地域格差と社会的決定要因の「見える化」 | 山下 喜久 | 30 |
| | 茂山 博代 | 九州歯科大学 | 揮発性生体分子情報に基づいた頭頸部がんの病態評価と新規バイオマーカーの探索 | 安細 敏弘 | 30 |
| | 中野 貴文 | 神奈川歯科大学 大学院 | 介護施設における根面う蝕の実態調査 | 荒川 浩久 | 30 |
| | 横山 知美 | 日本歯科大学 | 肝硬変ラットモデルへの再生肝細胞移植の治療効果について | 八重垣 健 | 30 |
| 2018 | 金澤 利哉 | 東京医科歯科大学 大学院 | 球形樹脂微粒子含有人工ガムによる咀嚼効率の評価 | 川口 陽子 | 30 |
| | 竹内 研時 | 九州大学 大学院 | かかりつけ歯科医の性別による患者の歯科保健行動の違いの検討 | 山下 喜久 | 30 |
| | 田畑 綾乃 | 岡山大学歯学部 病院 | 受動喫煙が睡眠時ブラキシズムに与える影響 | 森田 学 | 30 |
| | 小淵健二郎 | 大阪歯科大学 大学院 | 高齢マウスにおけるダブル DNA 経鼻アジュバントによる歯周病菌由来抗原に対する免疫応答の検討 | 三宅 達郎 | 30 |
| | 渡辺 孝康 | 日本大学 歯学部 | 歯周炎局所の細菌叢データにおける歯周病原細菌の未知なる免疫記憶領域探索 | 中村 善夫 | 30 |
| | 岩崎 理浩 | 朝日大学 歯学部 | 朝日大学病院の入院患者における口腔アセスメントガイドのスコアと低栄養状態の有無との関連の検討 | 友藤 孝明 | 30 |
| | 草間 太郎 | 東北大学 大学院 | 現在歯数と体重減少の因果関係についての研究：媒介分析を用いたメカニズムの解析 | 小坂 健 | 30 |
| | 廣島屋貴俊 | 九州歯科大学 | 高齢者における全身の骨格筋量と舌圧の関連に関する研究 | 安細 敏弘 | 30 |
| 2019 | 淵田 慎也 | 神奈川歯科大学 大学院 | 全国市町村における行政歯科専門職が成人歯科保健事業の実施状況に与える影響の検討 | 山本 龍生 | 30 |

| 年 | 氏名 | 助成時の所属 | 研究テーマ | 推薦者 | 支給額 万円 |
|------|-------|----------------------------------------|------------------------------------------------------------------------|-------|-----------|
| 2019 | 野川 敏史 | 北海道大学 大学院 | 高齢者の口腔機能と認知機能の関連についての研究 | 兼平 孝 | 30 |
| | 朝川美加李 | 九州大学 大学院 | 機械的舌清掃が舌マイクロバイオームの細菌構成に与える影響の解明 | 山下 喜久 | 30 |
| | 鶴田 美穂 | 鹿児島大学 病院 | 化学療法治療患者に対する周術期口腔機能管理の有用性—ベイジアンネットワークを用いて— | 於保 孝彦 | 30 |
| | 斉藤 智也 | 東京医科歯科大学 大学院 | ICTを活用した歯科口腔保健管理システムの開発と評価 | 川口 陽子 | 30 |
| | 小野瀬佑紀 | 東京歯科大学 | 成人におけるコホート研究に基づく根面う蝕の罹患状況及び関連要因 | 杉原 直樹 | 30 |
| | 木内 桜 | 東北大学 大学院 | 口腔機能が認知機能に与える影響；固定効果分析による因果関係の検証 | 小坂 健 | 30 |
| | 吉田 清美 | 日本大学 大学院(松戸) | 加齢による唾液腺の機能異常のメカニズムの解明 | 渋谷 鏡 | 30 |
| 2020 | 原田有里子 | 東京女子医科大学 | ネパールにおける2型糖尿病患者への口腔保健推進モデル構築「イイ歯プロジェクト」 | 杉下 智彦 | 30 |
| | 持田 悠貴 | 神奈川歯科大学 大学院 | 職域における歯数と医療費の関連およびその関連に歯科保健行動が与える影響 | 山本 龍生 | 30 |
| | 小宮山貴将 | 東北大学 大学院 | 地域高齢者における口腔状態と転倒関連骨折との関連 | 服部 佳功 | 30 |
| | 小山史穂子 | (地独)大阪府立病院機構 大阪国立がんセンター がん対策センター | COVID-19(新型コロナウイルス感染症)蔓延に伴う歯科受診状況の変化の検証 | 松浦 成昭 | 30 |
| | 外山 直樹 | 岡山大学 病院 | 次世代シーケンサーを用いた歯周炎抑制細菌の探索 | 森田 学 | 30 |
| | 山賀 俊介 | 大阪大学 大学院 | 歯周病菌 <i>prophyromonas gingivalis</i> の感染による歯肉上皮バリア機能の破綻機構の解明 | 天野 敦雄 | 30 |
| | 瀬戸口大介 | 鹿児島大学 大学院 | <i>Candida albicans</i> の DMBT1 への結合機序の解明に基づく高齢者 QOL 向上法の開発 | 於保 孝彦 | 30 |
| | 梅原 典子 | 東北大学 大学院 | 長期コホートビッグデータデータを用いた、口腔機能と現在歯数の死亡との関連の強さの評価：生存分析による解析 | 小坂 健 | 30 |
| 2021 | 亀田 真衣 | 東北大学 大学院 | 新規う蝕関連細菌 <i>Scardovia</i> 属に対する予防方法の探索 | 高橋 信博 | 30 |
| | 小柳 圭代 | 大阪歯科大学 大学院 | ヒト唾液タンパク由来ペプチドを用いた能動免疫型ワクチンによる歯周病原菌定着阻止効果 | 三宅 達郎 | 30 |
| | 奥 菜央里 | 九州大学 大学院 | 地域在住高齢者における口腔機能と動のおよび静的バランスとの関係 | 柏崎 晴彦 | 30 |
| | 石原 匠 | 北海道医療大学 歯学部 | 健康保険データを用いた咀嚼不良ハイリスク者を同定する要因に関する検討 | 三浦 宏子 | 30 |
| | 澤田なおみ | 岡山大学 大学院 | 舌背への光線力学療法による口臭の改善効果の検討 | 森田 学 | 30 |
| | 武田 飛鳥 | 国立保健医療科学院 健康危機管理研究部 | 新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言の歯科受診率に対する影響 | 福田 英輝 | 30 |
| | 岩井 浩明 | 朝日大学 歯学部 | 口腔内の <i>Helicobacter pylori</i> 菌 (<i>H.pylori</i>) 保有と胃の自覚症状の有無との関連 | 友藤 孝明 | 30 |
| | 基 敏裕 | 鹿児島大学 大学院 | 頭頸部がん放射線治療時の歯科金属冠への対処方向の比較研究：歯科金属冠除去 VS スペース作成 | 於保 孝彦 | 30 |
| 2022 | 佐藤 遊洋 | 旭川医科大学 | 2006年から2021年における歯科材料費が全歯科医療費に占める割合を明らかにする研究 | 西條 泰明 | 30 |
| | 釘宮 嘉浩 | 国立長寿医療センター 歯科口腔外科部 | 基本チェックリストと後期高齢者の質問票で抽出された咀嚼機能低下有訴者の特性の比較 | 平野 浩彦 | 30 |

| 年 | 氏名 | 助成時の所属 | 研究テーマ | 推薦者 | 支給額 万円 |
|------|-------|-----------------|------------------------------------------------------------|-------|-----------|
| 2022 | 岩崎 美友 | 東京歯科大学 | バイオアパタイト歯面塗布法による象牙質耐酸性強化法の検討 | 杉原 直樹 | 30 |
| | 中島 幸子 | 昭和大学歯学部 歯科病院 | 高齢者の口腔機能低下症に対する継続的な口腔機能管理の効果 | 佐藤 裕二 | 30 |
| | 大竹 知菜 | 東北大学歯学部 大学院 | 口腔細菌による亜硝酸産生能は、どのような条件下で効果的に行われるか？ —口腔環境因子に着目して— | 高橋 信博 | 30 |
| | 伊藤 奏 | 東京医科歯科大学 大学院 | 毛の先端形態が異なる歯ブラシの清掃性評価および使用感覚に対する感性評価 | 樺沢 勇司 | 30 |
| | 大久保 光 | 新潟大学 大学院 | 製造業事業所就業者のかかりつけ歯科医院の有無と現在歯数の関連 | 小川 祐司 | 30 |
| | 鈴木 到 | 日本大学 松戸歯学部 | Streptococcus mutans 産生メンブランベシクルが初期付着菌群の初について初期付着・凝集に与える影響 | 有川 量崇 | 30 |